

# おいしさと笑顔がつどう みなとまち塩竈

しおがま 塩竈市長(宮城県) **佐藤 昭** あきら  
Akira Sato



浦戸朴島の菜の花畑

塩竈市は、宮城県のほぼ中央、仙台市と日本三景で知られる松島との中間に位置しています。奥州一の宮鹽竈神社の門前町として、また、みなとまちとして栄えてきました。古くは、陸奥の国府多賀城への荷揚げ港として、藩政時代には伊達藩の港として、明治以降は国内有数の港湾都市として、また、近代になってからは近海・遠洋漁業の基地としても発展してきました。「日本一の鮮マグロの水揚げ港」に代表されるように、新鮮な魚介類が豊富にあり、港町独特の食文化がつけられています。すし店の数も多く、水産

加工業も盛んで、笹かまぼこ、揚げかまぼこなどの水産練り製品など、日本有数の生産量を誇るものが数多くあります。また、「奥の細道」には松尾芭蕉が塩竈から松島へ舟で渡ったことが綴られています。塩竈には松島観光の海の玄関口としての一面もあります。あまり知られていませんが、八百八島といわれる松島の島々のうち半分以上は本市の行政区にあります。特に、人が住んでいる浦戸諸島は、春には菜の花や潮干狩り、夏は海水浴にマリンスポーツ、秋冬には釣りを楽しめ、牡蠣等の海の幸も豊富で、まさに宝島と呼ぶに相応しい魅力に溢れています。

しかしながら、平成23年3月に発生しました東日本大震災では、浦戸諸島をはじめ、本市も甚大な被害を受けました。震災から6年が経過しましたが、これまで全国各地の皆さまにさまざまなご支援をいただきましたながら、市民総出でまちの復旧・復興に取り組みとともに、「おいしさと笑顔がつどうみなとまち塩竈」の実現に向け、塩竈の持つ個性と魅力を十分に生かしたまちづくりを進めています。

## 海とともに歩んだ人生

私は塩竈市長に就任する直前まで、約37年間、宮城県に土木技術者として勤務していました。特に、新産業都市建設の中核的役割を担う、港湾施設の整備に深



ブランドマグロ「三陸塩竈ひがしもの」の試食会

く関わることができ、結果的に一生涯で大好きな海とともに生活することが継続できています。

高校生の時代には、漕艇部に入部し、塩竈湾内で毎日、舟を漕ぎ、夕暮れ時には山の端に沈む夕日を仰ぎながら、海とともに暮らす喜びに、ひたすら感謝の日々を送りました。県庁に入庁した時に、ぜひ、港湾整備を担当させていただきたいとひたすら懇願をし、土木部職員時代の約半分を港湾行政に関わることができました。

私の人生のすべてといっても過言ではない塩竈市長に就任することができ、こ

の度の東日本大震災から、ふるさとを復旧、復興するという役割に遭遇したということは、まさに天命であると受け止めています。

特に、宮城県庁職員として、土木行政に関わることができた体験が、震災後の「復興まちづくり」の基本方針を決定する際に、貴重な判断基準となりました。本市の基幹産業が「港湾・水産」ですので、海と隔絶された新たなまちづくりは、絶対に進めるべきではないとの強い思いから、市民の皆さまには、今まで通りに、



鹽竈神社帆手祭（左から筆者、鍵宮司、東日本大震災以降、職員派遣をいただいている養父市の広瀬市長）

海のすぐ側で復興まちづくりを進めさせていたいただきたいという大変厳しいお願いをさせていただきました。

当所は、やはり海から受けた津波の記憶が影響し、できるだけ海から離れた所で生活を再建したいという方々もおられました。主体は従前地での復旧・復興を軸とし、今日まで取り組んできました。

今、われわれ行政に関わるすべての職員が「一燈照隅」の思いを胸に一刻も早く、復旧・復興の終了を全国に発信し、今日までのふるさと塩竈の再生にご支援をいただいた皆さまに感謝の意を伝えさせていただきます。

### 一燈照隅

私の市政の礎であり、座右の銘は「一燈照隅」という言葉です。この言葉は、最澄が説いた言葉として知られていますが、自らが灯りとなり、一隅を照らすことをいいます。そして、「一燈照隅 万燈照国」と続きますが、一つの灯火を掲げて一隅を照らし、そうした誠心誠意の歩みを続けると、いつか必ず共鳴する人が現れ、一灯は二灯となり三灯となり、いつしか万灯となって国をほのかに照らすようになる、といえます。

私は、現在、4期目の市政運営を担わせていただいておりますが、塩竈市長に就任

以来、塩竈に一つの明かりを灯し、市政のあらゆる分野に向いて、市民の方々と直接対話しながら、市政運営に取り組んできました。

初めに灯した明かりは本当に小さなものですが、これまで市民の皆さま、議員各位、そして、職員の力により、その明かりが十、百と増えていると実感しています。この明かりが、さらに千になり、万になり、塩竈市を明るく照らす「万燈照国」となる時が、「日本で一番住みたいまち・塩竈」が実現される時であると信じています。



東日本大震災からの復興支援のため、全国各地からお越しいただいている派遣職員の皆さんとの市長宅BBQ大会（毎年秋に開催）